The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	スウェーデン語näsa 〈鼻〉の比喩表現について
Author(s)	南澤, 佑樹
Citation	IDUN ー北欧研究ー. 2022, 24, p. 33-46
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/87436
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

スウェーデン語 *näsa*〈鼻〉の比喩表現について

南澤 佑樹

1. はじめに

本稿では、スウェーデン語で鼻を意味する身体部位詞 *näsa* を用いた比喩表現について考察する．概念メタファーの考え方によれば，人間の思考は本来メタファー的であり，我々は理解しにくい抽象的な概念をより分かりやすく具体的な概念を通して理解している（Lakoff & Johnson 1980: 3–5, 111–114）．例えば，感情や時間のような概念は目に見えず触れたりすることもできないためメタファーやメトニミー[1]を通して理解される．対して動植物やお金などはより具体的であり，他の抽象概念を理解するために用いられることが多い（Kövecses 2010: Ch.2）．身体部位もそのような具体的な概念の一つであり（p.18），先行研究でも繰り返し取り上げられてきた（e.g. Niemeier 2000; Yu 2008; Golden 2001）．

スウェーデン語の身体部位詞に関してもこれまでにいくつかの分析が行われているが（e.g. Håkansson 1989; Sköldberg 2012），本稿で取り上げる *näsa*〈鼻〉については，他の身体部位と比較してあまり詳細な分析が行われていないと思われる．したがって本稿では，スウェーデン語の辞書・コーパスを用いて *näsa* を含む比喩表現を収集し，それらの比喩表現について分析を行いたい．本研究で参照した主な辞書は *Svenska ordbok*（以後 SO），*Natur och kulturs svenska ordbok*（NKSO），*Svenskt språkbruk*（SS），*Svenska idiom*（SI）であるが，*Svenska akademiens ordbok*（SAOB）も適宜参照した．コーパスは主に PAROLE（PAROLE），Göteborgsposten（GP）を用いた．この他ウェブサイトから例文を引用する際にはトップレベルドメインが“se”のものに限定した．

本稿の構成は以下の通りである．まず第 2 章では *näsa* の定義を確認した後，鼻や嗅覚に関する比喩表現について扱った先行研究を概観する．そして第 3 章ではスウェーデン語の辞書・コーパスから収集した *näsa* の比喩表現を取り上げ分析を行う．ここでは先行研究を踏まえ *näsa* を含む比喩表現が否定的評価と結びつきやすいことを例を挙げて示す．最後に第 4 章を本稿のまとめとする．

---

[1] 籾山（1997: 31）はメタファーを「二つの事物・概念の何らかの類似性に基づいて，一方の事物・概念を表す形式を用いて，他方の事物・概念を表すという比喩」，メトニミーを「二つの事物の外界における隣接性，あるいは二つの事物・概念の思考内，概念上の関連性に基づいて，一方の事物・概念を表す形式を用いて，他方の事物・概念を表すという比喩」と定義しており本稿もこれにしたがう．概念メタファー理論にもとづけば，実際に言語表現として現れるメタファー・メトニミー表現は概念メタファー・メトニミーと明確に区別される．

2. 先行研究

SO において *näsa*〈鼻〉は“utskjutande parti mitt i ansiktet som har direkt förbindelse med luktorganen〈嗅覚器官と直に結びついた顔の真ん中の突き出た部分〉”と定義されている．このように鼻は嗅覚をつかさどる器官であり，顔の中心から突き出た形をしていることから際立ちの高い身体部位であるといえる．

嗅覚に関連する比喩表現については概念メタファー理論の枠組みでこれまでにいくつか分析が行われており（e.g. Sweetser 1990; Ibarretxe-Antuñano 1999; Kövecses 2019），嗅覚に関わる言語表現がしばしば否定的な意味合いで用いられることが明らかとなっている．例えば Sweetser (1990: 36–37)は，*he's a stinker* や *that idea stinks* のように英語では悪臭が好ましくない特徴や性格を表すのに用いられ，また匂いをかぐ行為がそのような特徴をかぎつける（*I smell something fishy about this deal*）ことに用いられると述べている．その他 Ibarretxe-Antuñano (1999) や Kövecses (2019: 335–338)では，何かを疑う行為や推測する行為が匂いを嗅ぎ取る行為として理解されるメタファーに触れている（SUSPICION IS SMELLING; GUESSING SOMETHING IS SMELLING SOMETHING）．Ibarretxe-Antuñano (1999)はバスク語の例なども挙げ，これらが必ずしも否定的に用いられるわけではないと述べているが，上述の通り嗅覚はしばしば悪臭のイメージと結びつくことから，多くの比喩表現が否定的な意味合いで用いられることが見て取れる．このように，嗅覚に関連する比喩表現はしばしば否定的な意味合いで用いられるが，これに関連する主張として Levin & Lindquist (2007)が挙げられる．Levin & Lindquist は，英語の *nose* を含む慣用表現を取り上げ，それらの表現を使用する際にともなう話者や行為者（動作主）の肯定的・否定的評価・態度という観点から考察を行なっている．彼らの主張によれば，英語の *nose* を含む慣用表現はその多くが話者や行為者の否定的評価を含んでいる．例えば，本来悪臭に対する嫌悪感を表す表現であった *wrinkle one's nose*〈鼻にしわを寄せる，顔をしかめる〉は，（話者の評価を含むことなく）行為者の嫌悪感を表す．一方 *look down one's nose*〈～を見下す，軽蔑する〉では行為者自身の否定的評価を表しつつ，行為者の振る舞いに対する話者の否定的評価も認められる．また *pay through the nose*〈ぼったくられる，法外な代金を支払う〉では，（行為者ではなく）話者の否定的評価が含まれる．

Levin & Lindquist も論じているように，*nose* には様々な否定的評価を含む表現が見られるが，*nose* と否定的評価が結びつく理由に鼻と悪臭との結びつきが挙げられる．この点は *wrinkle one's nose* のような表現からも明らかであるが，Levin & Lindquist はその他にも *nose* を含む比喩表現の中には *poke one's nose somewhere*〈～に首を突っ込む，干渉する〉や *lead someone by the nose*〈（誰か

を）牛耳る，完全に支配する〉，*rub someone's nose in something*〈（嫌なことなどを）しつこく思い出させる〉など行為者や行為の対象者の振る舞いをあたかも動物の振る舞いとみなしているかのような表現が見られることについて触れ，このような動物を想起させるイメージが否定的評価の基盤である可能性について述べている（p. 102）．Levin & Lindquist は *have a nose for something*〈～を嗅ぎつける勘がある〉など話者の肯定的評価を含む表現も挙げているが，英語の *nose* が一般的に話者や行為者の否定的評価と結びつきやすいことがこのような研究から見て取れる．

スウェーデン語 *näsa* については Håkansson（1989）が感情を表す比喩表現について様々な身体部位詞を含む表現を扱っており，*näsa* についても *få lång näsa*〈がっかりする，浮かない顔をする〉，*ha näsan i vädret*〈（鼻高々に）いばる〉，*rynka på näsan*〈顔をしかめる〉を挙げている．Håkansson はこのような表現がしばしば言語ごとに異なる点に触れた上で，スウェーデン語は英語と類似した表現を用いていると述べている．Sköldberg（2012）は *hålla för näsan*〈鼻をつまむ〉や *räcka lång näsa åt ngn/ngt*〈～を馬鹿にする〉などの表現についてこれらの表現が指す身振りの観点から論じており，そのような身振りを表す表現には *hålla för näsan* のように主に字義通りの意味で用いられるものや *räcka lång näsa åt ngn/ngt* のように主に比喩的に用いられるものがあると述べている（p. 188–191）．

以上のように鼻の比喩表現はしばしば話者や行為者の否定的評価と結びつくことが先行研究によって明らかにされているが，スウェーデン語 *näsa* についてはそのような観点からの分析はなされていないと思われる．このことから，本研究では *näsa* を含む比喩表現に関して以上の主張の妥当性について論じていきたい．

3. 身体部位詞 *näsa* の比喩表現

3.1 否定的・肯定的評価を含む比喩表現

前章で確認したように，*nose* はしばしば悪臭や動物的（あるいは動物に対する）振る舞いと結びつき，これが *nose* の否定的評価の基盤となっている（Levin & Lindquist 2007: 102）．これと同様の結びつきに基づく比喩表現はスウェーデン語 *näsa* にも見られる．

(1) a. Han *rynkade på näsan åt* hennes förslag. (NKSO)
〈彼は彼女の提案に顔をしかめた.〉

b. Jag tror nog att tjuvarna *fick lång näsa* när de öppnade kartongerna och fann att de var tomma. (SS)
〈きっと，泥棒たちはダンボールを開いて中が空だと分かった時にがっかり

したと思う.〉

c. Hon tog alla pengar och gick och den gamle mannen fick *stå där med lång näsa*. (SS)
〈彼女が有り金全てを奪って立ち去ると，その老人は途方に暮れた.〉

d. Hon brydde sig inte om allt elakt de sade om henne utan *satte näsan i vädret* och gick därifrån. (SI).
〈彼女は自身について彼らが言ったあらゆる悪口を全く気に留めず，鼻高々にそこを立ち去った.〉

e. Nu *räcker* jag *lång näsa åt* dom som inte trodde på mig när jag var yngre, säger han. (GP2011)
〈若かった頃に俺のことを信じてなかった奴らを今になって馬鹿にしてるのさ，と彼は言う.〉

f. Det låga valdeltagandet kan tolkas som att folket vill *knäppa* politikerna *på näsan*. (SO)
〈選挙に参加する人が少ないということは、人々が政治家たちを非難してやりたいと考えているということだと解釈できる.〉

まず（1a）の *rynka på näsan*〈顔をしかめる〉は，英語の *wrinkle one's nose* に対応する表現であり，行為者（顔をしかめた本人）が抱く不快感や嫌悪感を表す．Hellquist（1922: 535）が述べているように，*rynka på näsan* も本来は悪臭に対する反応を表す表現であり，少数ながら実際に悪臭に対する不快感を表す例も見つかる[2]．（1a）の表現から，スウェーデン語においても嗅覚と悪臭との結びつきが見て取れる[3]．次に（1b,c）の *få/stå där med lång näsa*〈途方に暮れる，がっかりする〉は騙されたりしたことによる失望の感情を表す．Hellquist（*ibid.*）にしたがえば *lång näsa* は失望の際のがっかりした表情を表しており，失望の表情を通して失望の感情を捉えたメトニミーである（cf. Kövecses 2010: 108, FACIAL EXPRESSION FOR SADNESS）．（1d）の *sätta näsan i vädret*〈天狗になる，鼻

[2] 次の文では，*rynka på näsan* が実際に悪臭に対する不快感を表している．
i) Hon tittade på ladan och *rynkade på näsan åt* lukten av förfall... (PAROLE)
〈彼女は納屋を見て，腐敗臭に顔をしかめた...〉

[3] これに加え，動詞 *snyta*〈（*sig* を伴い）鼻をかむ〉を用いた次のような表現では鼻と洟との結びつきも認められる可能性がある（cf. 瀬戸 2007: 638）．この表現は，常に否定を表す *inte* を伴い話者の否定的評価を表す．
i) Att genomföra ett så stort projekt är *inte snutet ur näsan* och kräver noggrann planering. (SO)
〈それだけ大きなプロジェクトを遂行するのはそんなに簡単なことではなく，綿密な計画が必要である.〉

高々である〉は，人が得意げに振る舞う際には通常頭を高くあげることに基づくメトニミー表現であり，Kövecses（1990: 90）もこのイメージに基づく HEAD HELD UNNATURALLY HIGH FOR PRIDE を挙げている．ただしこれらの表現が用いられるような場合において，必ずしも文字通りの行為・表情がともなうとは限らない（cf. Sköldberg 2012: 191）．その場合，実際には行われていない行為があたかも行なわれているかのように表現されるという点でメタファー的であるが，HEAD HELD UNNATURALLY HIGH FOR PRIDE のメトニミー的基盤も残っている．これはDeignan & Potter（2004: 1248）が指摘しているように，Goossens（1990）におけるメタフトニミー（metaphtonymy）のメトニミーからのメタファー（metaphor from metonymy）の一例である．同様の主張は（1e）*räcka lång näsa åt ngn*〈馬鹿にする，あざける〉に対しても可能である．この表現は他人を馬鹿にする際に行うジェスチャー（親指を鼻にあてた状態で手を相手に向けて広げる身ぶり）を表しているが[4]，文脈を見る限り（1e）において実際にジェスチャーが行われる可能性は低いと思われる．最後に（1f）の *knäppa ngn på näsan*〈～を叱責する，非難する〉は文字通りには人差し指や中指を親指で抑えそれを勢いよく弾いて相手の鼻に当てる行為（鼻へのデコピン）を指すが，これは相手を叱責するという心理的に相手に不快感を与える行為をより具体的な傷害行為を通して理解していることから，概念メタファーHARM IS PHYSICAL INJURY（Grady 1997）の具体例といえる．ここまでの例は全て，感情にともなう表情や身振りに直接言及した比喩表現であり，これらは対象に対する行為者の否定的態度を表している．ただし（1e,f）のような身振りや行為が実際には行われない（可能性が高い）場合においては，その表現をわざわざ用いた話者の評価が含まれていると考えることができ，その点で（1a-d）とは少し性質が異なると思われる．またこれらの表現から，鼻が悪臭だけではなく否定的な感情にともなう表情やその際に行う身振りとも結びついていることが分かる．

次の例は，鼻と動物的な振る舞いとの結びつきに基づく比喩表現である．

(2) a. Nu åtalas 47-åringen misstänkt för att ha försökt *dra* sitt försäkringsbolag *vid näsan*. (GP2006)
〈今回はとある 47 歳（の男/女）が自身の保険会社に対して詐欺を働こうとした容疑で起訴される.〉

---

[4] Håkansson（1989: 95）は，身体部位詞を用いた比喩表現が言語ごとに異なる場合が多いと述べているが *sätta näsan i vädret*（1d）のような表情を表す表現の場合には文化ごとの違いが比較的少ないと思われ，日本語でも「鼻が高い，鼻高々」など同じイメージに基づく表現が見られる．それに対し *räcka lång näsa åt ngn*（1e）のような身振りに基づくメトニミー表現の場合，文化による差異がより大きく日本語に同じイメージに基づく表現は見つからない．

b. Man bör vara försiktig när man köper en gammal bil så att man inte *blir dragen vid näsan*. (SI)
〈中古車を買う際には，騙されないように注意すべきである.〉

c. *Maktens* megafoner skulle aldrig *sticka näsan i* en sån farlig hantering. (GP2005)
〈権力の代弁者たちはそんな危険な事に首を突っ込むことなど決してないだろう.〉

d. Varför skulle *hon lägga näsan i blöt* i allt som kom i hennes väg? (PAROLE)
〈何故彼女は目の前の物事全てに首を突っ込もうとするのだろうか？〉

まず（2a,b）はどちらも同じ *dra ngn vid näsan* という表現に基づき〈～を騙す〉という意味を表す．SAOB や SO の記述によると，この表現は本来雄牛などの動物に鼻輪をつけて引っ張ることを指しており，そこから転じて「思い通りにあやつる（“styra ngn (helt) efter sin vilja”）」という意味で用いられていた（cf. *lead someone by the nose*）．現在は「騙す（“lura ngn”）」という意味で用いられることから，あたかも鼻輪をつけて相手を引っ張って思い通りにあやつる行為と他人を騙して思い通りに事を進める行為との間の類似性に基づくメタファー表現であるといえる．この表現は，騙される人をまるで動物のようにみなしているかのような表現を用いているという点で，話者の否定的評価を含むと思われる．Levin & Lindquist (2007: 97–98)は，英語の *lead someone by the nose* について騙される人に対する話者の批判的態度を表す例が多いと述べているが，スウェーデン語の場合 *dra ngn vid näsan*（2a）のように行為者（騙す人）に対する話者の批判的態度を表していると思われる例，また（*bli*）*dragen vid näsan*/ *dras vid näsan*（2b）のように騙される人に対する話者の批判的態度を表していると思われる例の両方が見られる．一方（2c,d）は英語の *poke*/ *stick one's nose somewhere* に対応する表現であり，何らかの出来事に介入，深入りすることが鼻を突っ込む行為によってメタファー的に表されている．これは，人間や動物が何かの匂いを嗅ぐ際には，犬が地面の穴に顔を突っ込んだりあるいは人間がコンロの鍋に顔を近づけたり，鼻をその匂いを嗅ぐ対象に近づけることに基づく表現である（Gibbs & Wilson 2002: 527）．これは物事に介入する行為者の行為を動物の振る舞いに見立てた（と考えられる）比喩表現であり，話者の行為者に対する否定的評価が認められる[5]．

上で挙げた表現は全て何らかの否定的評価を含んでいたが，*näsa* を含む比喩表

[5] なお，（2c,d）の表現に関して，日本語では「首を突っ込む」という表現が用いられる．この場合，日本語は英語やスウェーデン語と同様のイメージに基づいているが，異なる身体部位に注目している．

現の中にもいくつか話者の肯定的評価を含むものが見られる．

(3) a. De *har näsa för* hur man ska möblera så att det blir mysigt. (NKSO)
〈彼らは心地良い部屋作りの仕方（心地良くなるように部屋に家具を備え付ける方法）についての感覚が鋭い.〉
b. Firman söker en student som *har skinn på näsan* och goda administrativa kunskaper. (SO)
〈その企業は，意志が強くて十分な経営の知識もある学生を求めている.〉

（3a）の表現では，*de*〈彼ら〉が心地よい部屋作りに関する理解，その際の判断力に優れていることを表している．Deignan & Potter (2004: 1247) が述べているように，ここでは匂いを嗅ぎ取る能力から（分析的な理解力と対照をなす）直感的な理解力へとメタファー的な意味拡張が見られる（cf. SENSING (KNOWING INTUITIVELY) IS SMELLING, Ibarretxe-Antuñano 2013; 2019）．同様に（3b）*ha skinn på näsan*〈意志が強い〉も肯定的な評価を含む表現であるが, SAOB や SO の記述によれば，この表現は特に女性に対して用いられる．

3.2 その他の比喩表現

ここで *näsa* がメトニミー的に顔や人を表している例について見ておきたい．次のメトニミー表現は，鼻が顔の真ん中から前面に突き出た形をしていて際立ちが高いことに基づいていると考えられる．したがって，その基盤が悪臭などと関連のない中立的なものであるため，話者や行為者の評価という観点においてこれらの表現は中立的であると思われる．

(4) a. Han *stod* ideligen *på näsan* i den branta skidbacken. (SO)
〈彼は急斜面のゲレンデで何度も顔から転んだ.〉
b. Vissa konstnärer blir kända först när de *vänt näsan i vädret*. (SO)
〈芸術家には亡くなって初めて有名になる者もいる.〉
c. Hon har inte visat *näsan* sedan i april. (SS)
〈彼女は 4 月から顔を見せていない.〉
d. Han är sjuklig och *sticker* sällan *näsan* utanför dörren. (SO)
〈彼は病気がちで（扉の）外に顔を出すことはほとんどない.〉
e. Anna har alltid älskat böcker, trivts som bäst *med näsan i boken*, inne i värmen. (GP2007)
〈アンナはずっと本が好きで，暖かい屋内で本に顔をうずめている時が一番

だと感じている.〉

f. Ordförandeposten *gick hennes näsa förbi*. (SO)〈彼女は会長職を逃した.〉

g. Grundtanken är att arenan ska dra till sig evenemang som i dag *går Sveriges näsa förbi* på grund av platsbrist. (PAROLE)
〈根本の考えは，そのアリーナによって，今現在場所不足のためにスウェーデンが逃しているイベントを誘致する，ということである.〉

h. Jag har så mycket att göra på jobbet att jag knappt kan *hålla näsan över vattenytan*. (SO)
〈私はなんとかしのぐこともできそうにないくらい，仕事でたくさんやらなければならないことがある.〉

i. Han *gick dit näsan* pekade och hamnade i den gamla stadskärnan. (SO)
〈彼は真っ直ぐ進むと，旧市街の中心に行き着いた.〉

j. Ibland känns allt lätt och riktigt och jag vet minsann vart jag ska, jag liksom *går dit näsan pekar*. Men så vissa dagar, är det svårare.[6]
〈時々あらゆる物事が簡単で正しく思えて，そんな時はどっちに進めば良いかがばっちり自分で分かるの．ただ前に向かって歩いて行く感じね．でもまたある日にはそれがもっと難しくなるのよ.〉

まず（4a）の *stå på näsan* は〈顔からこける〉という日本語に対応し，手をつかずに前面に倒れてしまう事態を表す．同様の表現に *trilla*〈転ぶ〉や *stupa*〈倒れる，転ぶ〉などの動詞を用いた *trilla/stupa på näsan* といった表現も見られる．この表現については，確かに鼻は顔から突き出ているが実際に鼻のみが地面と接触するという事態は考えにくく，*näsa* が顔や頭全体を表していると考えられる．（4b）の *vända näsan i vädret*〈死ぬ〉に関しては，文字通りには鼻を天に向けるという意味であり，顔が上を向いている，つまり人間が横たわっているという事態から連想される死という事態が比喩的に表されている（SAOB: *väder* の項）．また（4c）の *visa näsan*〈顔を見せる，顔を出す〉も，誰かの元を訪れる際に鼻先だけを見せるという事態は想定しづらく（4b）と同様 *näsa* が顔，さらには人全体を指している例といえる．（4d）の *sticka näsan* (*utanför dörren*)〈（扉の）外に顔を出す〉や（4e）の(*sitta*) *med näsan i boken*〈本に顔をうずめる〉についても同様の分析が可能であるが，加えて（4e）の場合，本に顔をうずめるという表現を用いて実際は本を読み耽っている様子を表しており，ここには本を読む行為と本に顔をうずめる行為が同時に起こることに基づく時間的共起関係を基盤としたメトニミーも認

[6] https://blogg.karinbjorkegrenjones.se/2012/05/29/jag-gar-dit-nasan-pekar/（2021 年 5 月 19 日検索）

められる[7]．次に（4f,g）では，何らかの（好ましい）事態の獲得を逃してしまうことがその事態が目の前を通り過ぎていくことに喩えられている．この表現では，*näsa* 自体はメトニミー的に顔や人を表していると考えられる．しかし *ngt går ngns näsa förbi* という表現全体で考えると，それらの事態が実際に目の前を通り過ぎているわけではなく，（4g）の *Sverige*〈スウェーデン〉のようにそもそも鼻のないものに対しても用いることが可能であることからメタファー的である．（4h）の *hålla näsan över vattenytan/ vattnet*〈なんとかやっていく〉は，文字通りには呼吸ができるように鼻を水面から出しておくことを表す．足場がないところで呼吸のために水面から顔を出しておくのは困難であり，そのような大変な事態を通して仕事や生活が大変であることを表すメタファー表現である．しかしながら，このメタファー表現に関して鼻が用いられるのも，鼻が顔の中心から突き出た形をしており他の身体部位と比べても際立ちが高いことが一因であると考えられ，ここに鼻と顔とのメトニミー的な結びつきも見て取れる．最後に（4i, j）の *gå dit näsan pekar* は〈真っ直ぐ進む〉という意味で用いられる．この表現は鼻の突き出た形状があたかも前方を指しているかのように捉えた表現であるため直前で述べたようなメトニミー基盤は認められるもののよりメタファー的な表現であると考えられる．また，（4i）のような物理的な移動だけでなく（4j）のような人生を旅と捉えた比喩的な移動を表す例も見つかる（cf. A (PURPOSEFUL) LIFE IS A JOURNEY, Lakoff 1993b）．

最後に，*näsa* を含む比喩表現の中で知覚に関連するものについて見ておきたい．次の表現は，嗅覚器官としての鼻が（感情など）何らかの他の事態を表すのではなく，嗅覚的な知覚自体がメタファー的に捉えられているという点でこれまでの表現とは種類が異なる．

(5) a. Den *stickande* lukten *trängde in i näsan* och kom ner i halsen; (PAROLE)
〈刺激臭が鼻にきて喉にまで達した.〉
b. Doften av herrparfym *sticker i näsan*. (GP2003)
〈男性用香水の香りが鼻を突く.〉

Lakoff（1993a: 230–236）が述べているように，知覚経験はしばしば二方向の移動として理解される．一方は PERCEIVING IS TOUCHING と呼ばれ，これに基づけば知覚器官は手（“limbs”）のように捉えられ，それが知覚対象物に触れるこ

[7] なお（4a,c,d,e）の日本語訳を見ると，スウェーデン語において *näsa* を用いる表現に対して日本語ではしばしば「顔」が用いられることが分かる．このことから，顔や人全体を表すメトニミーが関わる表現の場合スウェーデン語は日本語よりも鼻に注目する傾向が高いと考えられる．

とで知覚が起こる．反対に PERCEPTION IS RECEPTION では，知覚対象物が何らかの移動物と捉えられ，それが知覚者（の知覚器官）に入ることで知覚が起こる．これらのメタファーはそれぞれ知覚者から知覚対象物への移動，知覚対象物から知覚者への移動という反対方向の移動に基づく[8]．視覚的知覚の場合，スウェーデン語では *kasta ett öga på ngt*〈～に視線を投げかける〉や *ngns ögon faller på ngt*〈～に目を落とす〉など前者の移動に基づくメタファー表現が数多く見られるのに対し，聴覚的知覚では後者の移動に基づくメタファー表現の方が多い（Minamisawa 2021）[9]．嗅覚的知覚の場合，（5a,b）のような知覚対象物から知覚者（知覚器官）への移動に基づくメタファー表現がいくつか見られる．（5a）では圧力に抗って進む事態を表す動詞 *tränga*（*in*）〈押し分けて入る〉，（5b）では動詞 *sticka*〈刺す〉が用いられているが，ここではどちらも知覚対象物となる匂いの移動が想定されている．嗅覚的知覚では，視覚的知覚とは異なり必ずしも知覚器官を対象が存在する方向に向ける必要はなく，また匂いを知覚する際には鼻から息を吸って空気を取り入れる必要がある．ここで感じられるのは知覚者に向かう移動であるため，この経験を考慮すれば *näsa* を含む比喩表現に関して PERCEPTION IS RECEPTION に基づくメタファー表現が見つかるのは自然であると思われる[10]．なお，（5a,b）の例はどちらも知覚者にとって匂いが不快であることを表わしており日本語の「鼻を突く，鼻を刺す」に対応する．これは心理的な不快感をより具体的な傷害を通して理解する HARM IS PHYSICAL INJURY に基づく表現であるが，このような例からも嗅覚器官としての鼻と悪臭との結びつきが見て取れる．

---

[8] Talmy（1996）は虚構移動（fictive motion）の観点から同様の二方向性について扱っている（cf. “sensory paths”, p.224–226）．

[9] この結果は，主に身体部位詞を含むメタファー表現のデータに基づく．

[10] *näsa* 以外の表現を含めると，前置詞 *till*〈～へ〉を含む *lukta sig till ngt*〈～を嗅ぎ出す，嗅ぎつける〉などはこの主張の反例としてみなせるかもしれない．

i） Man ska kunna se, höra och *lukta sig till* det som sker på scenen.（PAROLE）
〈舞台で起こる事を見て，聞いて，嗅ぎ取ることができなければならない.〉

ii） Men kan man verkligen *lukta sig till* rätt partner?（GP2005）
〈でも本当に正しいパートナーを嗅ぎ取ることができるのだろうか？〉

iii） Hunden *luktade sig till* köttbenet.（SO）〈犬が肉つきの骨を嗅ぎつけた.〉

確かに，i)の文では *lukta* が *se* や *höra* と並列されており，一見 *lukta sig till ngt* が嗅覚的知覚を表しているように思える．しかしこの例は舞台上で起こる出来事について描写している文であり，厳密な意味で嗅覚的知覚について述べた文であるかどうか不明である．また ii)の文では嗅ぎ出す対象が *rätt partner*〈正しいパートナー〉であり，この文が文字通り嗅覚的知覚を表している可能性は低い．実際 *lukta sig till* は i)や ii)のように厳密には嗅覚的知覚を表していないと思われる文が数多く見つかるが，その理由として，これらの表現が SO に挙げられている iii)のような文に基づいているからであると考えられる．つまり iii)の場合，犬は骨を求めて実際に探し回っている可能性が高い．その場合，これは知覚者の実際の移動に基づく比喩表現となり，厳密には *kasta ett öga på ngt* のような表現とはタイプが異なる．

さらに *näsa* は嗅覚をつかさどる器官を表すが，嗅覚的知覚ではなく視覚的知覚に対しても用いられることがある．

(6) a. Tjuven tog väskan *mitt framför näsan på* den gamla damen. (NKSO)
〈泥棒はその老婦人の目の前でカバンを盗った.〉
b. Han planerar dåligt och *ser inte längre än näsan räcker*. (SO)
〈彼は計画性がなく，目先が利かない.〉

上の文は，嗅覚的知覚ではなく視覚的知覚に基づいている．まず（6a）の *mitt framför näsan på ngn*〈～の目の前で〉について SS の記述にしたがえば，知覚者が不適切あるいはその場に相応しくないような（“ngt olämpligt”）事柄を目の前で目撃する事態に対して用いられ，それにともなう驚きの感情を暗に含む.（6b）では動詞の *se*〈見る，見える〉が用いられていることからもこの表現が視覚的知覚を表していることが見て取れるが，この表現では視覚的知覚がさらに抽象的な物事の理解力を表すために用いられている（cf. UNDERSTANDING IS SEEING, Lakoff & Johnson 1980: 48）．このようにスウェーデン語の *näsa* は視覚的知覚に基づく表現中でも用いられることがあるが，これは鼻が顔から前方に少し突き出ていることが理由であると思われる．つまり，知覚者が知覚対象物を見る場合には，知覚対象物が知覚者の視界内に存在する必要があるが（cf. VISUAL FIELDS ARE CONTAINERS, p. 30），知覚者の視界は遮蔽物などがなければ一定の広さを有していることが想定される．それに対して，鼻は顔から前方に突き出ているものの，鼻先が届く距離は極めて知覚者から近い狭い範囲である．以上の理解に基づき，*näsa* によって（6a）では物事が知覚者から近い距離で行われていること，また（6b）では視界の広さを鼻先の届く範囲として捉えることにより視界（転じて視野）が極めて狭いことが表されている．なお，視界に関する以上の理解から，特に（6b）の表現では話者の否定的評価も感じられる．

4. まとめ

本稿では，スウェーデン語の身体部位詞 *näsa*〈鼻〉の比喩表現について考察を行なった．先行研究において，嗅覚と悪臭との結び付きから，嗅覚に関連する比喩表現がしばしば否定的な意味合いで用いられることが示されてきた．また，英語 *nose* の慣用表現に関しても，Levin & Lindquist (2007)により，話者や行為者の否定的評価を含むものが多いことが明らかにされていた．これらの主張を踏まえ，本研究ではスウェーデン語 *näsa* の比喩表現がどのように用いられているのかについて分析を行なった．その結果，スウェーデン語の *näsa* に関しても，話者

や行為者の否定的評価を含む表現が数多く見つかり，英語の *nose* に関して Levin & Lindquist が挙げていた悪臭に基づく表現や，動物的な振る舞いに基づく表現も見つかった．また，その他にも失望の際の表情に基づく比喩表現や，馬鹿にする際の身振りに基づく表現なども見つかった．さらに，鼻がメトニミー的に顔や人全体を表す比喩表現も数多く見られたが，これらは顔における鼻の際立ちの高さに基づく表現であり，評価の観点では中立的であった．最後に，*näsa* を含む比喩表現の中で嗅覚的知覚を表す表現が見られたが，これらは知覚対象物から知覚者（知覚器官）への移動に基づいていた．

Om figurativa uttryck med *näsa* i svenskan

Yuki Minamisawa

Sammanfattning

I den här uppsatsen behandlas figurativa uttryck med ordet *näsa* i svenskan. I tidigare studier har det konstaterats att luktsinnet är associerat med obehagliga lukter och beteende hos djur, och att figurativa uttryck i förhållande till luktsinnet därmed ofta används med en negativ värdering av talaren/subjektet. Föreliggande studie har som syfte att jämföra detta påstående med figurativa uttryck med svenskans *näsa*. Resultatet visade att i svenskan finns det uttryck som tyder på obehagliga lukter (*rynka på näsan åt ngt*) och beteende hos djur (*dra ngn vid näsan*). Vidare har det förekommit uttryck som är associerade med ansiktsuttryck för negativa känslor (*få lång näsa*) och förnedrande gester (*räcka lång näsa åt ngn*). Dessutom är en del metonymiska uttryck baserade på att näsan är en utskjutande del mitt i ansiktet (*stå på näsan*, *visa näsan*), och denna typ av uttryck är neutral i förhållande till talarens/subjektets värdering. Slutligen finns det också uttryck som berör subjektets luktuppfattning och dessa uttryck är baserade på en (metaforisk) rörelse mot den som känner lukten.

参考文献

Deignan, Alice & Liz Potter. 2004. “A Corpus Study of Metaphors and Metonymies in English and Italian.” *Journal of Pragmatics* 36, 1231–1252.

Gibbs, Raymond W., and Nicole L. Wilson. 2002. “Bodily Action and Metaphorical Meaning.” *Style* 36, 524–540.

Golden, Anne. 2001. "Hvem er det som har hodet fullt av ideer, hjertet på riktig sted, tar hånd om de lovende studentene og har beina godt plantet på jorda: Menneskets kropp som kildedomene i metonymiske og metaforiske uttrykk." In: Anne Golden & Helene Uri (eds.) *Andrespråk, tospråklighet, norsk: Festskrift til Anne Hvenekilde*, 1–15. Oslo: Unipub forlag.

Goossens, Louis. 1990. "Metaphtonymy: The Interaction of Metaphor and Metonymy in Expressions for Linguistic Action." *Cognitive Linguistics* 1(3), 323–340.

Grady, Joseph E. 1997. *Foundations of Meaning: Primary Metaphors and Primary Scenes*, Ph.D. dissertation. Berkeley: University of California.

Hellquist, Elof. 1922. *Svensk etymologisk ordbok*. Lund: C. W. K. Gleerups förlag.

Håkansson, Gisela. 1989. "Bodily Behaviour in Emotive Expressions." *Working Papers* 35, Department of Linguistics, Lund University, 89–98.

Ibarretxe-Antuñano, Iraide. 1999. Metaphorical Mappings in the Sense of Smell. In: Rraymond W. Gibbs & Gerard J. Steen (eds.) *Metaphor in Cognitive Linguistics*, 29–45. Amsterdam: John Benjamins.

Ibarretxe-Antuñano, Iraide. 2013. The Power of the Senses and the Role of Culture in Metaphor and Language. In: Rosario Caballero & Javier E. Díaz Vera (eds.), *Sensuous Cognition: Explorations into Human Sentience: Imagination, (E)motion and Perception*, 109–133. Berlin/Boston: De Gruyter.

Ibarretxe-Antuñano, Iraide. 2019. Perception Metaphors in Cognitive Linguistics: Scope, Motivation, and Lexicalisation. In: Laura J. Speed, Carolyn O'Meara, Lila San Roque, & Asifa Majid (eds.) *Perception Metaphors*, 43 – 64. Amsterdam: John Benjamins.

Köhler, Per Olof & Ulla Messelius. 2001. *Natur och kulturs svenska ordbok*. Stockholm: Natur och kultur.

Kövecses, Zoltán. 1990. *Emotion Concepts*. New York: Springer-Verlag.

Kövecses, Zoltán. 2010. *Metaphor: A Practical Introduction*, 2nd Edition. Oxford: Oxford University Press.

Kövecses, Zoltán. 2019. "Perception and Metaphor: The Case of Smell." In: Laura J. Speed, Carolyn O'Meara, Lila San Roque, & Asifa Majid (eds.) *Perception Metaphors*, 327–346. Amsterdam: John Benjamins.

Lakoff, George. 1993a. "The Metaphor System and its Role in Grammar." *Papers from the Twenty-Ninth Regional Meeting of Chicago Linguistic Society*, 217–241. Chicago: Chicago Linguistic Society.

Lakoff, George. 1993b. “The Contemporary Theory of Metaphor.” In: Andrew Ortony (ed.), *Metaphor and Thought*, 2nd edition, 202–251. Cambridge: Cambridge University Press.

Lakoff, George & Mark Johnson. 1980. *Metaphors We Live By*. Chicago: University of Chicago Press.

Levin, Magnus & Hans Lindquist. 2007. “Sticking one’s Nose in the Data: Evaluation in Phraseological Sequences with *nose*.” *ICAME Journal* 31, 87–110.

Luthman, Hans. 2017. *Svenska idiom: 5.000 vardagsuttryck* (Tredje upplagan). Lund: Folkuniversitetets förlag.

Minamisawa, Yuki. 2021. “Conceptual Metaphors for Visual/Auditory Perception in Swedish.” *Folia Scandinavica Posnaniensia* 28, 4–16.

Niemeier, Susanne. 2000. “Straight from the Heart: Metonymic and Metaphorical Explorations.” In: Antonio Barcelona (ed.) *Metaphor and Metonymy at the Crossroads*, 195–213. Berlin: De Gruyter.

Språkbanken (= http://spraakbanken.gu.se/)

Sköldberg, Emma. 2012. “*Tummen upp* eller *tummen ner*? Om användning och beskrivning av konventionaliserade gester i svenskan.” *LexicoNordica* 19, 183–202.

Sweetser, Eve. 1990. *From Etymology to Pragmatics: Metaphorical and Cultural Aspects of Semantic Structure*. Cambridge: Cambridge University Press.

Svenska Akademien. 2009. *Svensk ordbok*. Stockholm: Norstedts.

Svenska Akademiens ordbok. URL: https://www.saob.se/

Svenska Språknämnden. 2003. *Svenskt språkbruk*. Stockholm: Norstedts ordbok.

Talmy, Leonard. 1996. “Fictive motion in language and ‘ception’.” In: Paul Bloom, Merrill F. Garrett, Lynn Nadel & Mary A. Peterson (eds.) *Language and Space*, 211–276. Cambridge MA: MIT Press.

Yu, Ning. 2008. “Metaphor from Body and Culture.” In: Raymond W. Gibbs, Jr. (ed.) *The Cambridge Handbook of Metaphor and Thought*, 247 – 261. Cambridge: Cambridge University Press.

瀬戸賢一．2007.『英語多義ネットワーク辞典』．東京：小学館.

籾山洋介．1997.「慣用句の体系的分類－隠喩・換喩・提喩に基づく慣用的意味の成立を中心に－」,『名古屋大学国語国文学』80: 29–43．名古屋：名古屋大学国語国文学会.